

「災害時にも役立つ平常時からの連携と備えをどのように進めていくか」

沢山のご参加ありがとうございました。一般講演会はこれで3回目となりましたが、今回は在宅ケアに加え防災時の連携について皆様と話し合いました。こうした意見交換の場をもつことで、知識の共有だけでなく、地域連携を深めたいと思っております。塚崎恵子

講演 凧のいえ代表 西田まち子氏

「地域住民の生活に寄り添う支援を目指した地域連携の課題」

講演 金沢医科大学 中井寿雄氏

「生命維持に電源を必要とする在宅療養者（児）の備えの実態と対策」

研究報告 金沢大学 京田薫

「地域で生活している高齢者の災害に備えた健康教育の実施」

交流タイム：防災食の試食・避難所での間仕切り生活体験



【皆様からのご感想】 防災の上での連携がまだ足りなく、皆で再認識していけるような会がもっと必要。防災に対する動機づけになった。一番弱い方々への支援は必要だが現実には難しく、人間としてのつながりが必要だが、それ以前の備えも大切。防災健康「教育」興味深く、どの世代にも必要。ひとりひとりの意識づけをどのように伝えたらよいか、専門職も意識する必要がある。石川県の各地域で、どのように防災のことを伝えているか知る必要もある。テーマを限定しない事例検討会などの開催もきたしており、それが課題の発見や地域の交流につながる。凧のいえと在宅ケアの連携、共通部分も多い。など

沢山のご意見ありがとうございました。次回は夏頃の予定です。またのご参加をお待ちしております。その他ご意見ご要望は研究室HPからお寄せください。 <http://square.umin.ac.jp/k-chiiki/tsukasaki/index.html>



金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域 在宅ケア科学研究室（文責：板谷）

* 本事業は下記の助成を受けて実施しています。
平成24年～27年度科学研究費基盤研究（B）(24390504)
平成25年～28年度科学研究費基盤研究（C）(25463618)